

ダイバーシティ事業 国際共同研究PI養成 事前調査プログラム
報告書

報告日：2019年3月25日

| | |
|---|--------------------------------|
| 派遣者所属名 | 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 人間発達専攻 表現系講座 |
| 派遣者氏名 | 大田美佐子 |
| <p>3月19日昼過ぎにニューオリンズに到着、ハーバード大学音楽学部キャロル・オジャ教授とともに、Society for American Music (以後、SAMと略す)の45回記念大会の会場となるMONTELEONEホテルに移動。23日(土)の午後の共同研究の発表について打ち合わせ、その展開についても議論する。</p> <p>3月20日 夕方にSAMのレセプション。オジャ教授からSAMを運営する様々な関係者に紹介していただく。夕食時に、ハーバード大学Katie Callam氏、神戸大学研究員の木本麻希子氏が合流。共同研究について打ち合わせ。</p> <p>3月21日は一日中SAMの研究発表を聴き、夜はハーバード大学の夕食会に招待して頂き、ハーバード大学音楽学部の関係者を中心に研究に関する一般的な意見交換も行った。</p> <p>3月22日はSAMのセッション参加。午後に共同研究発表のリハーサル。アトランタ・ジョージア大学でテーマの一部を共有する研究者を紹介される。</p> <p>3月23日の午後は研究発表「Marian Anderson's 1953 Concert Tour of Japan: Post-Occupation Racial Encounter through Performance」。第二のプロジェクトに向けて、SAMで紹介された研究者と打ち合わせ。</p> <p>3月24日の午前に、オジャ教授とあらためて今後の展開について相談。(American Musicの秋号に掲載予定の論文の邦訳について、今後の日本での展開について)</p> <p>3月25日早朝にニューオリンズ発、帰国。</p> <p>以上のように、オジャ教授から、多くの音楽学の研究者仲間をご紹介頂いた。特に女性研究者のネットワークは想像をはるかに超えた豊かさがあり、今後の共同研究でシンポジウムなどをする場合の人選についてもある程度話し合った。</p> | |

海外派遣終了後の研究の進捗状況 (2020年2月現在)

2019年4月、Carol J. Oja 教授 (ハーバード大学)、占領期の日本とアメリカの音楽文化の交流について、トランスナショナルな手法で調査研究する。来年度中には論文を刊行予定。

今後も、オジャ教授との共同研究を核にして、若手研究者とも共同しつつ、国際的な展も視野に入れて進めていくことにしている。